

## 救いと罪の定めの順序ー3

もう一度、地図を見ましょう。救いの部分、②番が恵み契約です。では、聖書が契約と言う時は3つとして分類します。

1. 創造の前に父と子が結んだ贖い契約
2. 創世記2:15-17にある行き契約
3. 創世記3:15から始まる恵み契約

贖い契約とは、エペソ1:4にあるように、父と子が創造の前から、父の選んだ民に、救いの方法を定めておられたことです。これは、父と子との間の約束であり、人間同士の約束ではありません。神様という位格同士の約束であるため、贖い契約と呼びます。イエスを通し、神ご自身の民を救う計画のことです。この計画のために、アダムが墮落したとき、すぐ、救い主イエス・キリストを約束してくださったことです。

イザヤ49:6を読む時は、父と子の関係を見ることが重要となります。先に述べたように、贖い契約の中には人間が入っておらず、父と子との間の契約である事を理解すべきです。イザヤ49:6節の文面から「わたし」は父のこと「あなた」とは、イエス・キリストを意味します。

父がキリストについて語っているこの箇所は、贖い契約について語っていて「ヤコブの諸部族を立たせ」とは、父が御子に約束するお言葉です。つまり、父が選んだ民を救いをもたらせて起こせという意味です。父は「イスラエルの中から留められている者たちを帰らせなさい」イスラエルの民の中から、救われるべき民を集めるよう命じました。その業は難しいものでも重いものでもなく、軽やかな働きだと語られています。それに加え「わたしはあなたを諸國の民の光とする」と語られ、キリストによって、異邦人が救われること、子がなすべき業として語られました。次に「わたしの救い」とは、父の民を作るということでした。ここで言う「わたし」とは、ヤハウェの神であり、父なる神が救おうとすることを、キリストが実行します。その事を地の果てまでもたらしなさいと語られています。マタイ28:18-20節の御言葉でも、旧約でのキリストの福音に対する話が詳しく描かれています。なぜ、ここまで詳しく描かれているのか。それは創造の前から父と子との間に約束されていることだからです。

イザヤ53:10節を見てみましょう。旧約から父と子の関係について多くのことが明らかになっています。しかしユダヤ人達は、これらのこと信じることができませんでした。イザヤ書だけでも、約束を十分に悟ることができたでしょう。まずは「彼を碎いて痛める事は、主の御心であった。」(イザヤ53:10)。彼とはキリストのことであり、キリストが碎かれ痛められる事は父の願いでした。キリストは人間の罪のための生贊とならなければならなかつたということです。ですから、子は父に従順しなければなりませんでした。

子が全焼の生贊となるなら「彼が末永く、子孫を見ることができ、」と語られており、その子孫とは、キリストを信じるクリスチヤンのことです。その日は末永く続くとあります。キリストの統治の期間です。その期間は、キリストの初臨から再臨までの統治の期間を表します。

ですから、イザヤ書はキリストの再臨までを待ち望んでいるのです。キリストの再臨を初めに預言したのは誰でしょうか。創世記に登場するエノクです。エノクは早くからキリストの再臨を預言しました。すなわち、旧約聖書からキリストに対する預言が驚くほどあります。キリストの統治の月日はとても長く、主の御心はキリストによって完全に成し遂げられる。父の御心を完全に成し遂げるまで、再臨の時まで、父が選んだ民を救う働きを続けるということです。今、私たちの時代を語っています。

53:11節、キリストは「自分のたましいの激しい苦しみのあとを見て満足する。」とあります。イエスは十字架で死なれ「完了した」お言葉と共に満足されたということです。ここで満足するとは、キリストの血潮の恵みが、聖霊の御業によって信仰者たちが起こし、信じる者たちが、キリストを信じるところを見て、またキリストが「満足する」ということです。例として、〇〇姉妹がいます。このように説明をすればより理解ができるでしょう。〇〇姉妹がキリストをよく信じています。その姿を見てイエスはがどのように満足なさるでしょう。〇〇姉妹がよく信じるな～～私が十字架で血を流したことは本当に良かった。私は本当に満足する。みなさんがセミナーに来て、日本教会が起こされることを願い、御言葉を聞いています。主は天の御座の右に座して満足なさっています。東京プレイヤーセンターで多くの魂が来て祈っています。イエス様は満足なさっておられます。そうすれば私たちは、それ以上の満足を味わうことでしょう。私たちを見てイエス様が満足なさることは、私たちは余計に満足します。

イザヤ53:11節の続きです。「わたしの正しいしもべ」とは、イエスの事です。その知識によって多くの人を義とする。この地上に来られて教え続けました。今も天の神の御座の右で聖霊の業によって、教え続けています。キリストの預言者の働きによって知識を用いて、信仰を起こし、多くの人を義とするの

です。再び10節に戻ってみます。彼が自分のいのちを罪過のためにいけにえとされたとなっています。これは大祭司の職務です。11節は、教える預言者の職務です。後半には、彼らの咎をご自身が担うとなっています。私たちの咎をすべて負われたと言うことです。

そして12節です。ここではキリストの王の職務が出ます。「それゆえ、わたしは多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物として分かちとる」強者たちからと、翻訳されるべきです。強者とは誰ですか。サタンです。サタンから奪い取ります。救い出します。サタンの奴隸となっている者たちをイエス・キリストが救い出します。ここで示されるイエスは、王の職務。今現在、私たちの王はイエス様です。神に選ばれた民なのに、サタンの手下にいます。悪魔の手下にいます。日本語でも悪魔の単語が使われています。その悪魔の手から救い出します。神の民をです。

12節をもう一度見ましょう。結論です「多くの人の罪を負い、そむいた人達のためにとりなしをする。」とあります。今イエスはどこにおられるでしょうか。天の御座の右におられます。ご自身の民のためにとりなしをおられるというのが結論です。

今私は新約を講論しているのではありません。旧約を講論しています。新約にある内容が旧約に全部入っています。初臨、復活、昇天、天の御座の右に座して統治なさる王、私たちのためにとりなす大祭司の王、今現在も、私たちを教える預言者、再臨の時まで、すべてを父が定められたことです。この短い53章の3つの箇所(10.11.12)が新約聖書を全部含めています。ならば、旧約時代の民はイエスを信じられたでしょうか。これほど詳しく説明しているのに、しかし53:1節見てください。信じたでしょうか、信じなかつたでしょうか。信じなかつたのです。「私たちの伝えたことを誰が信じたか。」本当に信じないのです。これほど詳しく教えているのに。なぜ信じないでしょうか。世のせいで信じられない。悪魔の手に握られているから信じない。心が暗くて信じられない。肉の情欲のために信じられない、信じない理由はとても多くあります。

ですが、53:1節は信じられると言います。「主のみ腕は誰に現れたのか」主のみ腕とは聖霊様を意味します。聖霊様が業を行うと、信じられるということです。信じるということです。聖霊様が業を行う時、どのように業を行うでしょうか。イエスがなさる働きも預言していますが、イザヤ書には、聖霊の御業についても詳しく説明しています。イザヤ64:6節を見てください。「私たちはみな、汚れた者のようにになり、私たちの義はみな、不潔な着物のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、その咎は風のように私たちを吹き上げます。」聖霊が働けば、私たちの衣が汚れていることを知るようになります。こ

ここでいう衣とは、行いによる義を語っています。しかしその行いが義ではなく、不義だと悟ります。汚れていて汚物だらけです。ならば、誰かが脱がしてくれないとダメでしょう。ゼカリヤ3章にも預言があります。「その汚れた衣を脱がせよ」それから、新しい義の衣を着せてあげます。イザヤ66:2節には、汚れた衣を脱がせてしまい、新しい衣を着せる聖霊様の働きについて預言されています。

66:2節「これらすべては、わたしの手が造ったもの。」とあります。わたしの手とは父の靈を現わします。聖霊様は名前がありません。ローマ8:9節を見ると、父の御靈と呼ばれていたり、キリストの御靈と呼ばれたりします。父の御靈と呼ばれる時には、父のなさる働きを指す時に父の御靈と呼び、またキリストの御靈と呼ぶときには、子が成した業を指すときにキリストの御靈と呼びます。ですので、イザヤ66:2節を見ると「これらすべては、わたしの手が造ったもの。」とは、聖霊様です。ならば聖靈が、その靈魂がイエスを信じるよう、どのように作るかと言えば、

「わたしが目を留める者は、へりくだって心碎かれ、わたしの言葉におののく者だ。」（イザヤ66:2）。

聖靈が罪を悟らせ、その心を碎いて謙遜にさせます。なぜ謙遜にさせるでしょうか。聖靈がその魂にイエスに行きなさい。強情な人は行くでしょうか。行きません。だから聖靈が謙遜にさせます。それから行け～～と言えば、どうするでしょうか。はい、行きます、と言います。それらを全部聖靈が作業をなさいます。人間が説得してはできません。聖靈が連れて行かないとダメです。その聖靈が低くさせた時、わたし（神）の言葉におののくようになります。イエスを信じなければ、と聖靈から言われます。もうすでに心根が震えます。従順しようとします。はい、行きます、行かなくては。このような心になる時、どなたがお世話しますか。66:2節「わたしが目を留める」（イザヤ66:2）。父がお世話をします。ですから聖靈は、その魂がキリストに行くようにし、キリストに行った魂を父が面倒を見ます。

午前中の講義を覚えてますか。父が始まれば子に行くようにし、また聖靈に、その聖靈は再び信者をキリストへ、キリストに導かれたその魂を再び父へと行かせ、父がお世話をします。今、この内容がイザヤ66:2節に全部あります。旧約でも十分にキリストを信じることができました。しかし、確実に信じるようになるために、父は子をこの世に遣わしました。その子は、父の命令に全く従順し成し遂げました。父と子は聖靈を遣わしたのです。今、日本教会に最も重要な必要な恵みは、聖靈の恵みです。では私たちは、この聖靈の恵みが

ある為には何をすべきでしょうか。私たちはこの御言葉を、神の御言葉を続けて伝えなければなりません。昨日も、東京プレヤーセンターで御言葉の上に聖霊が働くと申しました。聖霊様はいつ働きますか。御言葉が蒔かれる時に働きます。ならば、聖霊様は、私たちの思うままに働いてくださるでしょうか。聖霊様、お願ひします。明日10時に来て業を行ってくださいと、願うことはできません。聖霊の思うままです。願っても、聖霊様の思うままに働くからです。

「風は思うままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのかわかりません」(ヨハネ3:8)。

この風は聖霊のことです。風は思うままに吹きます。聖霊様の主権です。ですから、聖霊様、明日8時まで来てください、と言えないです。そうしたら、私たちはどうすれば良いですか。御言葉を一生懸命に伝えれば良いです。聖霊様が来て御業を行ってくださるように、東京プレヤーセンターで続けて御言葉を宣べます。聖霊様が来てくださいます。昨日、田中さんが来られて、仰っていました。聖書の聖句一つ一つを説明してくださる説教は初めて聞いたとです。私に初めという単語を3回ぐらいに語ってました。私は初めという単語をどこで知ったのかと言うと、柔道競技を見ながら分かりました。もみ合いしながら、中止！と言って、引き離した後で、初め！と言えば、また競技が始まるのを。

今回、パリ・オリンピックの時、柔道がとてもとても楽しくて、それを始めから終わりまで見ました。その度に、初め！初め！それが今回田中さんから初めを聞きました。以前のセミナーで、講解説教する原理について学びました。日本教会がいち早く回復しなければならないのは、牧師先生たちが聖書自体を講論するように伝えました。主題説教が悪いというわけではなく、日本教会の聖徒たちが目覚めるためには、聖書自体が必要であるためです。そうすれば、聖書の上に聖霊が働くので、講解説教が何より必要なのです。

私の望みは、東京プレヤーセンターで10~12人ほどの講解説教の専門家が立ち、次の若い世代に御言葉の使役者が立てられれば、日本教会は聖霊によって目覚めるときが来るでしょう。そのとき、先に話したイザヤ66:2にある御業が起こります。主のみ腕は日本教会にいつ現れるでしょうか。それは必ず現れます。すでに聖霊様が現れる時に、訪れる現象までも預言されています。

「ああ、渴いている者はみな水を求めて出て來い。」(イザヤ55:1)

靈的飢え渴きが起こるようになります。皆さん、靈的飢え渴きが起こるのは二つです。御言葉をさらに勉強したい時、心が飢え渴きを覚えています。神様に祈りたい、神に呼び求めたい時、飢え渴きが起こっていることです。

では、東京プレヤーセンターは御言葉を宣べる所です。祈る所です。毎日あるからですね。だれでも簡単に来れます。三人の方が準備できています。しかし、そのために訪れる方々に、水を与えないです。55:1 節をもう一度見てください。水のために来たのに、主が与えるのは何ですか。ぶどう酒や乳を与えます。皆さん、水とぶどう酒や乳とは価額がどう違いますか。水を飲みに来たのに、ぶどう酒や乳をくださる、びっくりするほどの恵みです。55:6 節「**主**を求めよ、お会いできる間に、近くにおられるうちに、**主**を呼び求めよ。」となっています。人々が探し求めるようになるということです。

昨日、ヨシュア記2章の遊女ラハブが、神を知る知識があったので、救ってくださいとどれだけ探し求めたのですか。そのような現象が起こります。それらはすべて聖霊様が起こすことです。イザヤ53章は、新約時代を生きる私たちに、イエスを信じる原理をすべて説明されています。しかし問題は信じないとということです。しかし、聖霊様が働くと信じることができます。

ですから、今日、私たちはこの聖霊様を求めなければなりません。そのために御言葉の深さをより深めていく必要があります。